

表－1

分析項目別分析方法及び定量限界値等

分 析 項 目		定量限界	単 位	分 析 方 法	備 考
降 下 ば い じ ん 解 性	貯水量	0.01	L	容量法	
	総量	0.1	t/km ² /月	重量法	不溶解性総量+溶解性総量
	不溶解性総量	0.1	〃	〃	
	タール分	0.1	〃	アセトン抽出法	
	タール分以外の可燃性物質	0.1	〃	重量法	不溶解性総量-(タール分+灰分)
	灰分	0.1	〃	〃	
	鉄	0.001	〃	フレイム原子吸光法 または I C P 発光分析法	
	溶解性総量	0.1	〃	重量法	検水 約200mL
	pH	0.1		ガラス電極法	
	カルシウムイオン	0.01	t/km ² /月	イオンクロマトグラフ法	
い じ ん 解 性	鉄イオン	0.001	〃	フレイム原子吸光法 または I C P 発光分析法	
	塩素イオン	0.05	〃	イオンクロマトグラフ法	
	硫酸イオン	0.05	〃	〃	検水 25mL

窒 素 酸 化 物	一酸化窒素	1	ppb	NG-KN-S法 (別紙 1 参 照)	
	二酸化窒素	1	〃	〃	
	窒素酸化物	1	〃	〃	一酸化窒素+二酸化窒素

- 1) 疑義があれば市担当者と協議の上行う。
- 2-1) 降下ばいじん採取はダストジャーを用いること。
- 2-2) 貯水量が 500mL 未満のものについては、蒸留水を加えて 500mL とし、分析すること。
- 2-3) 藻類発生防止のために通年で 0.01mol/L 硫酸銅溶液 10mL を添加すること。
- 2-4) 操作は、衛生試験法・注解 (日本薬学会編) の方法に準じること。
- 3) 表示桁数は、有効数字 2 桁とし、有効数字 3 桁目を四捨五入する。
また、定量限界未満の場合は、未満表示とする。